

桜
まほろば日記

R6.6.24

大好きは
魔法の言葉



めだか学級
開講式
にて

あるお母さんの「子育て実践記」を紹介します。

昨年、ある先生のお話を聞く機会がありました。先生は自らの子育て体験をもとに、いろいろお話してくださいました。その中で、

「我が子を一日十回 大好きと言い抱きしめてあげてください。」

と言われました。早速、家に帰り娘を抱きしめ「お母さんは、〇〇ちゃんがだ〜い好き」と言うと、照れくさそうに「うん」とうなずいているだけでした。最初は意識して、「大好き」と言うように心がけていましたが、次第に自然と言葉かであるようになり、その頃からでしょうか、気がつくともとても大らかな気持ちで娘と接している自分に気付きました。一ヶ月もすると、「〇〇もお母さんのこと、だ〜い好き」と言葉で自分の気持ちを表現してくれるようになり、とても素直になってきました。

私たち大人は、「大好きなんて口にしなくても当たり前のこと」と思いがちですが、子どもにとっては言葉にしてあげること、とても安心するようです。また、お休みの日には、娘といっしょに南犬立を考え買い物に行き夕食を作っています。時間はかかりますが、食の大切さを感じる大事なひとときを楽しく過ごしています。

「子育て」に正解はないといいますが、その通りですね。子どもひとりひとりに個性があるように、育てる私たち親にも個性があります。

私はこの「大好き」という言葉を娘に伝えるようになって、子育ての環境が大きく変わりました。自分自身をやさしい気持ちにさせてくれる魔法の言葉です。

このお母さんのすてきなところは、「実践するといいわ!!」と言われたことを、すぐに家でやってみたことだと思います。

一日十回も大好きなんて言えないし... 言わなくてもわかるでしょ... そんな時間ないし... とやるかといえることでも、何かいいわけをしてやらなくていいことありますよね。でもこのお母さんのようにやってみると、こんなにすてきな発見がある!! このお母さんの発見は、あたたかい言葉を口に出していると、自分の気持ちまであたたかくなり、自分の気持ちがあたたかくなると、周りの人まであたたか〜くなるということではないでしょうか。

「大好き」をぜひ、お子さんに伝えてくださいね。

小さいお子さんは抱きしめて、高学年の子にはさり気なく。

◎ この他にも「めだか学級開講式」の話し合いの中で、こんな言葉を我が子に言っていきたい!! というものがでてきましたので紹介します。

「わかった、信じるよ」「かっこいいね」「さすが」「すごい」「矢らなからた」

「ありがとうね」「センスあるね」「いいね」「教えて」等々

学校の教職員も、これらの言葉を子どもたちにかけていきますね。